

《開幕》ディン・Q・レ展：明日への記憶

2015年7月25日(土)ー10月12日(月・祝) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

世界で最も活躍するベトナム人アーティスト、待望のアジア初個展！

森美術館は、2015年7月25日(土)から10月12日(月・祝)まで、ベトナム人アーティスト、ディン・Q・レのアジアにおける初の大規模個展となる「ディン・Q・レ展：明日への記憶」を開催します。

ディン・Q・レはカンボジアとの国境付近のハーティエンに生まれ、10歳の時、ポル・ポト派の侵攻を逃れるため、家族とともに渡米しました。写真とメディアアートを学んだ後、ベトナムの伝統的なゴザ編みから着想を得た、写真を裁断してタペストリー状に編む「フォト・ウィービング」シリーズ(1989年～)を発表し、一躍注目されることとなります。また、レは綿密なリサーチとインタビューに基づき、人々が実体験として語る記憶に光を当てます。国際舞台への出世作となった映像インスタレーション作品《農民とヘリコプター》(2006年)では、自作のヘリコプターの開発に挑むベトナム人男性を中心に、ベトナム人と戦争との複雑な関係を巧みに描き出しました。本展では、ディン・Q・レの初期作品から最新の映像インスタレーションまで、代表作25点を展示します。

ベトナム戦争終結から40年、日本にとっては戦後70年の節目を迎えたいま、国家や社会の「公式な」歴史の陰で語られることのなかった市井の人々の名もなき物語を読み直しつつ、アートと社会のより密接な関わりを探ることはきわめて重要な課題ではないでしょうか。本展ではディン・Q・レの作品とユニークな活動を通して、私たちの過去と現在、そして未来について考えます。



《農民とヘリコプター》

2006年

3チャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、手作りの実寸大ヘリコプター
250×1070×350cm、15分

Collaborating Artists: Tran Quoc Hai, Le Van Danh, Phu-Nam Thuc Ha, Tuan Andrew Nguyen

Commissioned by Queensland Gallery of Modern Art, Australia

展示風景：「リフレクション：アートに見る世界の今」堂島リバービエンナーレ2009、大阪
撮影：福永一夫

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

ディン・Q・レ

1968年、ベトナム、ハーティエン生まれ。ホーチミン在住。1978年、家族とともにアメリカへ移住。1989年、カリフォルニア大学サンタバーバラ校にて美術学士課程修了、1992年、ニューヨーク視覚芸術学校美術修士課程修了。

主な個展にシャーマン現代美術基金(シドニー、2011年)、ニューヨーク近代美術館(2010年)、タフツ大学アートギャラリー(マサチューセッツ、2009年)、アジア・ソサエティ(ニューヨーク、2005年)など。主な国際展にメディアシティ・ソウル2014(ソウル市立美術館)、ドクメンタ13(カッセル、ドイツ、2012年)、シンガポール・ビエンナーレ(2008年/2006年)、第50回ヴェネチア・ビエンナーレ イタリア館(2003年)など多数。



本展のみどころ

◆ 森美術館初、東南アジア(ベトナム)出身アーティストの大規模個展

本展は、アジアのアーティストに注目し、主に東アジア出身アーティストの個展を開催してきた森美術館にとって、初めて東南アジア出身アーティストを紹介する大規模個展となります。近年、経済的にも急激な成長途上にあり、アート・マーケットの動向も活発な東南アジアのアーティストのなかでも、特に国際的評価の高いディン・Q・レに焦点を当てます。

◆ バラエティに富む、ダイナミックな作品の数々

写真を工芸的に編んでいく「フォト・ウィービング」シリーズなどベトナムの手仕事を取り入れた作品、完成度の高い映像と本物のヘリコプターや舟などを組み合わせたインスタレーションなど、視覚的バラエティに富む、ダイナミックな作品が紹介されます。

◆ ていねいな取材とインタビューに基づいて語られる新たな歴史

綿密で、人の深層心理にまで踏み込む独特の取材によって、個人の記憶と物語がドラマティックに生成されます。マス・メディアやハリウッド映画によって流布されたベトナム戦争のイメージとは全く異なる、ベトナム人当事者のこれまで語られることのなかった物語が表出します。

◆ 日本のいまを捉える新作

ベトナム戦争のリエナクトメント*に興じる日本人男性への取材を基に新作映像を制作。新たなベトナム戦争のヴィジョンを捉えるとともに、日本の歴史や記憶、アイデンティティの問題などについて考えます。

* リエナクトメント：歴史的出来事を再演する活動

◆ 日本の戦後70年、ベトナム戦争終結から40年という節目の年に、歴史を再考・議論する場を提供

2015年という節目の年に、報道写真を通して見るベトナム戦争、ベトナム戦争が日本社会や日米関係に与えた影響、また、今日のベトナムの現代アートシーン、ビジネス・マーケットとしてのベトナムの魅力など、さまざまなテーマでレクチャーやセッションを開催することで、活発な議論の場を生み出します。



《抹消》2011年
シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、写真、石、木製ボードの断片、木製通路、コンピューター、スキャナー、ウェブサイト (erasurearchive.com)
サイズ可変、7分
Commissioned by Sherman Contemporary Art Foundation, Sydney, 2011
Supported by Nicholas and Angela Curtis
展示風景：シャーマン現代美術基金、シドニー、2011年
撮影：Aaron de Souza



《人生は演じること》
2015年
シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、軍服
26分
Commissioned by the Mori Art Museum, Tokyo, 2015

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

開催概要

主催：森美術館

協力：日本貨物航空株式会社、シャンパーニュ ポメリー、ボンベイ・サファイア

企画：荒木夏実(森美術館キュレーター)

会期：2015年7月25日(土)ー10月12日(月・祝)

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

開館時間：10:00ー22:00 | 火 10:00ー17:00 *ただし9/22(火・祝)は22:00まで

*いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料：一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳ー中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金に消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(屋上 スカイデッキを除く)

*屋上 スカイデッキへは別途料金がかかります

お問い合わせ：Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

巡回スケジュール

広島市現代美術館 **会期：**2016年3月19日(土)ー5月15日(日)

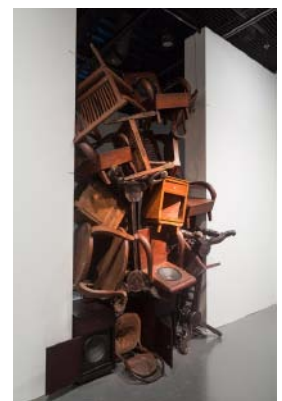
展覧会概要

ディン・Q・レは1968年にカンボジアとの国境付近であるベトナムのハーティエンに生まれ、ポル・ポト派の侵攻を逃れるために10歳の時に家族とともにアメリカに渡りました。カリフォルニア大学サンタバーバラ校とニューヨーク視覚芸術学校で写真とメディア・アートを学んだ後、細かく裁断した写真をタペストリー状に編む「フォト・ウィービング」シリーズ(1989年〜)で注目され、2003年にはヴェネチア・ビエンナーレのイタリア館で展示されることとなります。このシリーズで用いられる独特の技法は、幼少期にベトナムで親戚から習ったゴザの編み方に着想を得たもので、作品にはベトナム戦争をはじめ、カンボジアの遺跡、ポル・ポト派による虐殺、ハリウッド映画など多様なモチーフが織り込まれ、作品を見る角度や立ち位置によってその見え方は変化します。

《傷ついた遺伝子》(1998年)というシリーズでは結合双生児をテーマとし、ベトナム戦争中にアメリカ軍が散布した枯葉剤との関連を示唆しています。ホーチミン市内の店舗を使った最初の展示では、レが考案した結合双生児用の服や玩具が商品のように並び、訪れる人々に衝撃を与えました。それはベトナム人が語ろうとしないタブーを破り、議論を促す試みだったのです。



(左)《おかえりなさい、サイゴンへ》(「ミレニアムにはベトナムへ」シリーズより) 2005年 デジタルプリント
76.2 × 96.6 cm Courtesy: Elizabeth Leach Gallery, Portland, USA



(右)《バリケード》 2014年 仏領インドシナ時代の家具、スピーカー、ステレオ・システム、マイクスタンド、マイク、サウンド サイズ可変 Collaborating artist: Hamé (Mohamed Bourakba) 写真提供:ソウル市立美術館

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

さらに映像を用いた作品《農民とヘリコプター》(2006年)では、自作のヘリコプターの開発に挑むベトナム人男性に焦点を当て、ベトナム戦争の象徴でもあるヘリコプターをめぐるベトナム人と戦争との複雑な関係を巧みに描き出しました。3面の映像と手作りのヘリコプターを組み合わせたインスタレーションは、シンガポール・ビエンナーレ(2008年)などで評判を呼び、レの名を世界的に知らしめるきっかけとなりました。またドイツ、カッセルの国際展ドクメンタにおける

《光と信念：ベトナム戦争の日々のスケッチ》(2012年)では、かつての従軍画家たちによる100点のドローイングの展示とともに、彼らの戦時の青春を生き活きと蘇らせる映像作品を発表しました。

レは徹底した取材を行い、写真、立体、映像などさまざまなメディアを用いて、これまで語られなかった物語に注目し、「公式な」歴史と複雑に絡み合いながら存在する、名もなき市井の人々の個の歴史をすくいあげようとします。どのように歴史が記録され、制度化されるかを観察すると同時に、戦争による物理的な破壊のみならず、しばしば見落とされがちな人々の痛みや喪失の感覚、難民としての心理的葛藤の記憶などに焦点を当て、さらにはどのような状況下においても損なわれることのない人生の輝きを捉えます。そこには、ベトナムとアメリカ両方の文化のはざまに身を置いた経験をもつレならではの、独自の視点が活かされているといえるでしょう。

グローバル化が進み、価値観が多様化する現代の世界において、歴史を読み直し、アートと社会とのより密接な関わりを探ることは、きわめて重要な課題です。ベトナム戦争終結から40年、日本にとっては戦後70年でもある節目の年に、今最も活躍するアジアのアーティスト、ディン・Q・レのユニークな作品と活動を通して、本展は語られてこなかった物語に目を向け、私たちの過去と現在、そして未来について考えます。

(「ディン・Q・レ展：明日への記憶」キュレーター／森美術館キュレーター 荒木夏実)



《傷ついた遺伝子》 1998年
シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、手編みの子供服、ぬいぐるみ、人形(樹脂・プラスチック)、おしゃぶり
サイズ可変、16分58秒
Commissioned by The Gunk Foundation, New York



《無題(パラマウント)》
2003年
Cプリント、リネンテープ
101.6×152.4cm
シャファー家蔵
写真提供：ベルビュー美術館、ワシントン

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

?! 展覧会関連パブリックプログラム

■アーティストトーク ※日英同時通訳付、手話同時通訳付

細く切った写真プリントを編み込んでいく「フォト・ウィービング」やダイナミックな映像インスタレーションなど、多様な手法を用いて制作を続けるディン・Q・レが、美術史家のモイラ・ロス氏を迎え、ともにこれまでの制作活動や本展初出品の新作などについて語ります。

出演：ディン・Q・レ(アーティスト)、モイラ・ロス(美術史家、詩人、脚本家)

日時：2015年7月25日(土)14:00-15:30(開場：13:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階) **定員：**80名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum ※受付終了しました



モイラ・ロス

■トークセッション

第1回「ベトナム現代アートをめぐって：戦争から今日まで」 ※日英同時通訳付

ディン・Q・レは自らのアーティストとしての制作を続ける一方で、ホーチミンに現代美術のためのスペース「サン・アート」を設立し、ベトナムのアートシーンを牽引する活動を行っています。ともに「サン・アート」を運営するキュレーターのゾーイ・バット氏とディン・Q・レ自身にその活動について話を伺います。また美術批評家の林道郎氏には、ベトナム戦争が日本に与えた影響などについて、社会とアートの観点からお話しいただき、日本とベトナムのつながりについても考察します。

出演：ディン・Q・レ、ゾーイ・バット(サン・アート、エグゼクティブ・ディレクター/キュレーター)、林道郎(上智大学国際教養学部教授)

モデレーター：荒木夏実(森美術館キュレーター/本展担当キュレーター)

日時：2015年7月26日(日)14:00-16:00(開場：13:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階) **定員：**80名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



ゾーイ・バット



林道郎

第2回「アート・社会・歴史」 ※日英同時通訳付

リサーチとインタビューを通して、歴史や社会の隠された側面に光を当てる作品を制作してきた2人のアーティストが、アートの表現の中で社会的、歴史的テーマを扱うことについて語ります。

出演：ディン・Q・レ、小泉明郎(アーティスト) **モデレーター：**荒木夏実

日時：2015年9月12日(土)14:00-16:00(開場：13:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階) **定員：**80名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



小泉明郎

■レクチャー

第1回「カメラを通して見たベトナム戦争」 ※日本語のみ

ベトナム戦争を従軍取材した報道写真家の石川文洋氏。戦争の実態を間近に捉えたその写真は大きな反響を呼びました。日本人写真家がカメラを通して見た戦争とはどのようなものだったのかについて、お話を伺います。

出演：石川文洋(報道写真家)

日時：2015年8月29日(土)14:00-15:30(開場：13:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階) **定員：**80名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



石川文洋

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

第2回「結婚にみるベトナム社会のいま」※日本語のみ

グローバル化の中で台湾や韓国などの外国へ渡るベトナム人女性の国際結婚が増えています。ベトナム研究者の岩井美佐紀氏を招き、結婚事情に焦点を当てながら変動するベトナム社会のいまについてお話しいただきます。

出演：岩井美佐紀(神田外語大学アジア言語学科教授)

日時：2015年9月26日(土)14:00-15:30(開場：13:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階)

定員：80名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



岩井美佐紀

■森美術館・横浜美術館コラボレーション 中高生プログラム「アーティストと出会う」※日本語のみ

森美術館「ディン・Q・レ展：明日への記憶」、横浜美術館「蔡國強展：帰去来^{ききょうらい}」(2015年7月11日-10月18日)を鑑賞し、世界的に活躍するアジアのアーティストの表現を通して私たちの歴史、身近な生活などさまざまなことについて自由に話し合う全3日間のプログラムです。最終日にはディン・Q・レに会い、質問したり話を聞いたりします。

日程：2015年8月2日(日)10:00-13:30 森美術館「ディン・Q・レ展：明日への記憶」鑑賞

8月30日(日)10:30-14:00 横浜美術館「蔡國強展：帰去来」鑑賞

9月13日(日)10:30-14:30 森美術館にてディン・Q・レとディスカッション

対象：中学生、高校生

定員：15名程度(要予約)

料金：無料(交通費は自己負担)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

※本プログラムは、横浜美術館「蔡國強展：帰去来」との合同企画として開催します。詳細に関しては、横浜美術館ウェブサイトをご覧ください。 <http://yokohama.art.museum>

※本プログラムは、3日間通しのプログラムにつき、全日程の参加が必須となります。

あらかじめご了承ください。お申し込みください。



蔡國強 《壁撞き》2006年

ドイツ銀行によるコミッション・ワーク

Courtesy Cai Studio

Photo: Jon Linkins, courtesy: Queensland Art Gallery |

Gallery of Modern Art

The Deutsche Bank Collection

■キュレータートーク「名もなき人の声を集めて」※日本語のみ、手話同時通訳付

歴史の表舞台に現れないベトナムの市井の人の声を拾うディン・Q・レの作品を読み解きながら、現代美術に描かれる多様な物語の重要性について語ります。

出演：荒木夏実

日時：2015年7月31日(金)19:00-20:30(開場：18:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階)

定員：80名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum ※受付終了しました

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ギャラリートーク ※日本語のみ

森美術館スタッフが、展示室内でツアー形式のトークをおこないます。

日時：2015年8月19日(水)14:00-15:00
 9月2日(水)14:00-15:00
 9月16日(水)19:00-20:00
 9月30日(水)19:00-20:00

会場：森美術館展示室内

定員：各回15名 料金：無料(要観覧券チケット)

お申し込み：不要(当日先着順、観覧会場入口にお集まりください)

■学校と美術館のためのプログラム ※日本語のみ

戦争、個人の歴史、マスメディア、アイデンティティ、多様な技法と表現など、観覧会で扱われるさまざまなテーマについて、学校教育や子どもたちの環境と関連付けながら、先生と美術館スタッフがディスカッションします。図工や美術のみならず、他教科の先生もぜひご参加ください。

日時：2015年7月30日(木)18:30-21:00

会場：森美術館

対象：保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、専門学校の先生

定員：15名程度(要予約) 料金：無料

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

■ファミリープログラム—おやこでアート ※日本語のみ

ベビーカーに乗っている赤ちゃんから、小さなお子さままで、おやこでアートを楽しむことのできるツアーです。お子さまの年齢に合わせて、ご希望のツアーをお選びいただけます。

◆ベビーカーツアー

小さなお子さまを連れた保護者の方を対象としたツアーです。ベビーカーでご来館されても安心して楽しみいただけます。

日時：2015年8月11日(火)11:00-12:00、14:00-15:00

会場：森美術館展示室内

対象：未就学児(0~3歳)とその保護者 定員：各回10組(要予約/抽選) 料金：無料(要観覧券チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

※お申し込み受付期間：2015年7月16日(木)~7月28日(火)

※抽選結果は2015年8月3日(月)にメールにてご連絡いたします。

◆おやこでおしゃべりツアー

おしゃべりを始めたお子さまと、作品を見ながら展示室を回るツアーです。お子さまの視点に立って、おやこで一緒にお楽しみいただけます。

日時：2015年8月22日(土)11:00-12:00

会場：森美術館展示室内

対象：未就学児(4~6歳)とその保護者 定員：各回10組(要予約/抽選) 料金：無料(要観覧券チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

※お申し込み受付期間：2015年7月16日(木)~7月28日(火)

※抽選結果は2015年8月3日(月)にメールにてご連絡いたします。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ アクセスプログラム ※日本語のみ

◆ 耳と手でみるアート

視覚に障がいがある方を対象とした、スタッフとの対話を通して作品を楽しむツアーです。

日時：2015年10月3日(土)10:30-12:00

会場：森美術館展示室内

対象：視覚に障がいがある方 定員：6名(要予約) 料金：無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum または、電話(03-6406-6101)

◆ 手話ツアー

手話と言葉で展覧会を楽しむツアーです。手話をお使いにならない方も気軽にご参加ください。

日時：2015年9月25日(金)19:00-20:00

10月3日(土)14:00-15:00

会場：森美術館展示室内

対象：一般 定員：各回10名(要予約) 料金：無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum または、ファックス(03-6406-9351)

・出演者は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

パブリックプログラムに関するお問い合わせ：

森美術館 パブリックプログラム

Tel: 03-6406-6101(月～金：11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: ppevent-mam@mori.co.jp

関連商品

■ 展覧会カタログ

論考執筆者：荒木夏実(森美術館キュレーター)

ゾーイ・バット(サン・アート、エグゼクティブ・ディレクター/キュレーター)

サンドラ・Q・ファーミン(コロラド大学美術館 館長/チーフキュレーター)

モイラ・ロス(美術史家、詩人、脚本家)

サイズ：A4変型(21×28.2 cm) 言語：日英バイリンガル 価格：未定

制作・発行：森美術館/株式会社 平凡社 発売日：2015年8月25日(予定)

■ 展覧会オリジナルグッズ

ポストカード7種/各162円(税込)

展覧会ロゴTシャツ2種/販売価格未定



関連商品に関するお問い合わせ：

森美術館 ミュージアムショップ

Tel: 03-6406-6118 営業時間：10:00-22:00(祝日を除く火曜日は17:00まで) ※森美術館開館時間に準ずる

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

【同時開催】 会期：2015年7月25日(土)－10月12日(月・祝)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション002：存在と空間——ス・ドホ+ポー・ポー

企画：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

ス・ドホ（1962年生まれ）は、1990年代以降、国際的に活躍する韓国の代表的アーティストのひとりです。ソウルの実家やニューヨークの自宅アパートなどの空間を紗幕で再現する代表的なインスタレーションのシリーズと併行して、「全体」と「個」の関係を考えさせる多様な作品も制作しており、《因果関係》もその一例です。ここでは、仏教の基本概念のひとつ「業（カルマ）」をテーマに、思い、行為、結果という因果関係が現世から来世へも続く様子を、連綿と繋がるおびただしい数の人体で表現しています。

ポー・ポー（1957年生まれ）は、変革の進むミャンマーで1980年代以降のコンセプチュアル・アートを牽引してきたアーティストです。とりわけ1960年代から続いた軍事政権下、外の世界との交流が限られるなか、独学で哲学や現代アートを会得し、1980年代に始めた絵画作品を、立体作品、そしてインスタレーションへと発展させてきました。出品作の5点の絵画は、ポー・ポーが20歳の頃に興味を持った仏教哲学「アビダルマ」に基づき、宇宙の四大要素（「地（Pathavi）」、「水（Apo）」、「火（Tejo）」、「風（Vayo）」）やその総合体に幾何学的な形態と色を対応させて描いたものです。

いずれの作品も仏教の考え方から生まれたもので、インドから数千年にわたってアジアに伝搬してきた世界観が、世代や地域を超えてアーティストの創造活動の源になっていることがわかります。壮大な宇宙空間と自分の存在を、二人の作品を通して想像してみてください。



ス・ドホ 《因果関係》
2007年 インスタレーション
アクリル樹脂、アルミニウム板、ステンレススチール・フレーム、ステンレススチール・ケーブル、モノフィラメント
295 x φ120 cm
所蔵：森美術館
画像提供：リーマン・モービン・ギャラリー、
ニューヨーク/香港



ポー・ポー 《火（動的エネルギー）》
1985年
油彩、カンバス 75×75 cm
所蔵：森美術館

?! 展覧会関連パブリックプログラム

■アーティストトーク ※日英同時通訳付

技巧をこらした美しい作品の数々で国際的に知られた韓国人アーティスト、ス・ドホが、本展に合わせて来日！韓国国立現代美術館の開館記念展ほか、出品作を含めた最新の活動について話します。

出演：ス・ドホ（アーティスト）

日時：2015年7月25日(土) 19:00-20:30(開場：18:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階)

定員：80名(要予約) 料金：無料(要展覧会チケット)

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



ス・ドホ
撮影：Lee Ju Yeon

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

MAM
SCREEN

MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりの
シングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン002:ゴードン・マッタ=クラーク記録映像集

企画：近藤健一(森美術館キュレーター)

「MAMスクリーン002」では、映像の持つ「記録」という特性を通して1970年代当時のパフォーマティブな実践を今日に残したゴードン・マッタ=クラーク(1943-1978年)の作品を紹介します。マッタ=クラークは、彫刻やインスタレーションの制作、パフォーマンスやレストラン経営等、多彩な活動を行いました。建築物を切断する大規模なプロジェクトで最もよく知られており、これらを記録した映像作品も多数残しました。今回は、ニュージャージー州の一軒屋を二つに切断した《分割》(1974年)、パリの再開発により取り壊しが決まったビルに穴を開ける《円錐の交差》(1975年)という2つの代表的プロジェクトに加え、マンハッタンの時計台に作家自身が上り、歯を磨く、髭を剃るといったパフォーマンスを行う《クロックシャワー》(1973年)など、隠れた名作も上映します。これらの映像は一過性のプロジェクトを記録するという重要な役割を持ちつつも、プロジェクトそのものとは別の独立した作品として考えることも可能です。本展は、マッタ=クラークの作品を通して記録映像の意味について検証を試みます。

本画像は著作権使用許諾の条件上、
ウェブサイトでは表示できません。

ゴードン・マッタ=クラーク
《円錐の交差》
1975年
16mmフィルムをビデオに変換、カラー、サイレント
18分40秒
配給：エレクトロニック・アーツ・インターミックス(EAI)
© Estate of Gordon Matta-Clark / ARS, N.Y. & JASPAR, Tokyo
E1493

上映作品

1. 《フレッシュ・キル》(1972年) 12分56秒
2. 《クロックシャワー》(1973年) 13分50秒
3. 《分割》(1974年) 10分50秒
4. 《円錐の交差》(1975年) 18分40秒

- ※ 当プログラムは約60分で、毎時30分から上映されます。
- ※ 最終上映開始は20:30(祝日を除く火曜日は15:30)となります。
- ※ 企画展パブリックプログラム等実施のため、「MAMスクリーン」の上映がない時間帯があります。詳細は森美術館ウェブサイトをご覧ください。 www.mori.art.museum

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



MAM
RESEARCH

MAMリサーチは、アジアの現代美術を中心に特定の作家や動向に着目し、歴史的、社会的な文脈とともに考える資料展示です。

MAMリサーチ002:ロベルト・チャベットとは誰か?—フィリピン現代アート的发展とともに

主催：森美術館、キング・コング・アート・プロジェクト・アンリミテッド、フィリピン

企画：片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)、キング・コング・アート・プロジェクト・アンリミテッド

ロベルト・チャベット(1937-2013年)は、アーティスト、キュレーター、初代フィリピン文化センター美術館長、アーティスト主導による展示スペース「Shop 6」主宰者、大学教授など極めて多岐にわたる立場で1960年代以降のフィリピンにおける現代アートの発展に多大な貢献をしてきました。2013年の没後も、香港のアジア・アート・アーカイブ(AAA)が彼の業績をまとめたオンライン・アーカイブを整備し、2014年秋にはフィリピン文化センターでトリビュート展が開催されています。現代アートに関する彼の思想は、フィリピン国内で世代を超えた影響を残していますが、国際的な評価は未だ充分だとは言えません。本展では、チャベットの芸術的な実践の総体を、作品に限定せず多様な角度から浮き彫りにします。



(左)
ロベルト・チャベット
《アップル・ペインティング・レッスン》
1982年
キャンバスにミクストメディア
34.3 x 25.4 cm (各/45点組)
撮影：MM Yu
Courtesy and photo courtesy: King Kong Art Projects Unlimited

(右)
ロベルト・チャベット
《バカワン》素描
1974年
紙に水彩、鉛筆
30 x 22.5 cm
Courtesy: King Kong Art Projects Unlimited

?! 展覧会関連パブリックプログラム

■トーク「ロベルト・チャベットとは誰か?」 ※日英同時通訳付き

キング・コング・アート・プロジェクト・アンリミテッドは、ロベルト・チャベットの世代の異なる教え子たちの集まりです。大変厳しい先生であったようですが、フィリピン大学のチャベット教室は多くの優れたコンセプチュアル・アーティストを輩出しました。本トークでは、香港アジア・アート・アーカイブでのチャベット・アーカイブ創設にも携わったリンゴ・ブノアン氏に、ありし日のチャベット像についてたっぷり語ってまいります。

出演：リンゴ・ブノアン(キング・コング・アート・プロジェクト・アンリミテッド共同主宰)

日時：2015年7月28日(火) 19:00-20:30(開場：18:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階)

定員：80名(要予約) 料金：無料

※プログラム開始前18:30-19:00の間およびプログラム終了後20:30-22:00の間、本プログラムにお申し込みいただいた方のみ「MAMリサーチ002」をご鑑賞いただけます。なお、森美術館の他の展示はご覧いただけません。

お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



生前のロベルト・チャベット(左)と
リンゴ・ブノアン(右)、2009年
撮影：MM Yu

最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトのプレス画像ストックより申請、ダウンロードいただけます。
<https://mam-media.com/jp/press-img>

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

MORI ART MUSEUM